

岩手医科大学歯学会第2回総会抄録

日 時 : 昭和51年11月7日(日)

場 所 : 岩手医科大学歯学部講堂

演題1. 過去1年間における岩手県立中央病院歯科口腔外科外来の実態

○小川邦明*, 千葉 清, 山口一成, 小口順正

岩手県立中央病院歯科口腔外科*

岩手医科大学歯学部口腔外科学第1講座

私達は昭和50年4月から昭和51年3月までの1年間に岩手県立中央病院歯科口腔外科外来を訪ずれた患者の臨床統計的観察を行なって、今後の地域医療の指針を得ようと種々検討を行なったので報告する。

昭和50年4月から昭和51年3月までの1年間に当科を受診した新来患者数は1,101名で、再来患者数は6,366名であった。

1. 患者の実態

1) 月別頻度

月平均新患者数は91.7名で、再来患者数は530.6名であった。

2) 性別、年齢別

性別では男476名に対して女625名で男女比は1:1.31であった。年齢別では20才代が最も多く、次いで10才未満、30才代となっている。

3) 地域別

市町村別では盛岡市が76.1%で最も多く、その他は近郊の市町村からの来院が多かった。盛岡市では、山岸、加賀野など病院に近距離の地区からの患者が多くみられた。

4) 来院患者の分析

来院患者を便宜的に院内、院外に分類してみると、前者では職員22.8%、入院患者13.7%と院内も多く、サービス機関的面も持っている。

5) 紹介患者

歯科的疾患はベット数の多い内科系の入院患者の紹介が多かった。反面、口腔外科的疾患は耳鼻科、外科など隣接科からの紹介が多かった。

2. 症例分析

1) 主訴に対する診断別頻度

保存的疾患が68.1%で最も多く、口腔外科的疾患が24.5%、補綴的疾患7.1%であった。

2) 保存的疾患

う蝕が最も多く38.4%、歯根膜炎24.0%であった。

3) 口腔外科的疾患

残根などの歯牙疾患32.2%、炎症30.7%と歯科的なものが圧倒的に多くみられた。

4) 補綴的疾患

欠損の症例が34.6%、補綴物破損26.9%などとなっている。

演題2. 本学附属病院開設以降10年間に補綴科で装着された各種補綴物の統計

○吉田 忠, 小林琢三, 山田芳夫, 塩月牧子, 羽田野明, 黒田 賢, 松村文英, 中嶋 武, 川守恵美子*, 真山優子*, 小浜哲郎*, 近藤聖二*, 志田杜人*.

岩手医科大学歯学部補綴学第1講座

岩手医科大学歯学部補綴学第2講座*

昭和41年1月より昭和50年12月に至る10年間に、岩手医科大学歯学部附属病院補綴科外来患者に装着した各種補綴物の製作状態について調査した。この間に製作された補綴物の総数19,762個は、次のように分類された。(1)製作頻度で最も多いものは、局部床義歯の6,209個で、各種補綴物の総数19,762個に対して31.4%を占め、次いで全部鑄造冠の3,767個19.1%、以下総義歯2,445個12.4%、架工義歯2,278個11.5%、修理1,661個8.4%、継続歯1,414個7.6%、ジャケット冠1,168個5.9%、前装冠776個3.9%、そして、顎補綴44個0.2%の順となった。(2)製作推移では、総義歯は、ほぼ毎年その割合は異動せず、局部床義歯が当初40~50%台を占めていたものが、後半年度において20%台に年々減少傾向を示した。一方各種歯冠補綴物の占める割合は、年々増加傾向を示している。ここ